

臨床研究「小耳症耳介形成術後軟骨露出に対する陰圧閉鎖療法の有用性の検討」
について

筑波大学附属病院形成外科では、標題の臨床研究を実施しております。
本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

自家肋軟骨を用いた軟骨フレームによる耳介形成術は小耳症の標準的な治療です。良好な形態の耳を獲得するためには、皮膚の薄層化、凹凸の大きな軟骨フレームを作成する必要があります。一方で薄い皮膚と凹凸の大きな軟骨フレームは、この治療の最大の合併症である創治癒遅延、創離開、皮膚壊死などリスクになります。術後の皮膚トラブルによる移植肋軟骨フレーム露出、そしてそれに続発する感染が生じると。最悪の場合にはフレームを摘出しなければならないこともあります。そのような場合には外科的治療を中心に様々な対処法が報告されていますが、未だに治療は困難な病態である。

陰圧閉鎖療法は創部に持続的に陰圧をかけることにより、創治癒を促進する方法ですが、1997年にその有用性が報告されて以来、様々な部位に用いられてきています。今回当科では小耳症術後の軟骨露出に対して過去にNPWTを用いた症例を検討し、その有用性、使用上の注意につき調査を行います。

② 研究対象者

2010年1月から2019年1月に 口腔がん切除後に小耳症で肋軟骨を用いた耳介再建する手術を受けた患者さん

③ 研究期間

倫理委員会承認後～2019年9月30日まで。

④ 研究の方法

患者さんの診療録、臨床写真を用いて⑤の項目について後ろ向きに調査し、収集した情報の解析を行い、適切な陰圧閉鎖療法の使い方を明らかにします。新たに追加検査を行うことはありません。なお、診療情報はすべて個人が特定できないように匿名化します。

⑤ 試料・情報の項目

年齢、性別、軟骨フレーム露出（時期、原因）、皮膚欠損の大きさ、皮膚欠損の部位、感染の有無、追加手術（術式、時期）、陰圧閉鎖療法（期間、吸引圧）
上皮化時期、軟骨吸収の有無

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

提供しません。

⑦ 試料情報の管理について責任を有する者

筑波大学 形成外科 講師 佐々木薫

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院 305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：形成外科 担当 佐々木薫

電話・FAX：029-895-3122

対応可能時間：平日9～16時